

リビング新聞女性起業家支援キャンペーン受賞者発表!

私の「あったらいいな」を実現します



リビング新聞が毎年行っている「女性起業家支援キャンペーン」。第3回の今回は、首都圏と大阪・神戸合わせて378人の応募があり、厳正な審査の結果、4人が選ばれました。



リビング賞
コミュニケーション拠点の運営
地元のパワーを発信します

横浜市・荒木智恵子さん (52歳)

リビング賞の知らせを運営者として活躍している聞き「こんなにうれしかったこと久しぶり」と感動したという荒木智恵子さん。街づくりのボランティアを通じて、地域には多種多様な才能を持つ女性たちがいることを知り、彼女たちがコミュニケーションできる場所を作ろうと思いを立ちました。現在は、カフェ、談話室、手作りの委託スペースがある「コム・コラボレーション」を開業し、自らに続きます。

自宅のある鶴見の「鶴見西口オープンカフェ協議会」にボランティアで参加、イベントの計画・司会をする一方、コミュニケーション拠点「コム・コラボレーション」を設立。ホームページ <http://story55.hp.infoseek.co.jp/>

アイトコーポレーション賞
女性の再就職を支援
働きたい気持ちに応えたい

港区・橋田佳音利さん (45歳)

橋田佳音利さんが設立した「フラジュテリー」は、ミドルエイジの女性の再就職を支援する人材紹介会社です。企業に門前払いされ落ち込んでいた中高年の女性たちを見て、彼女たちに元気を出してもらえたらと思うのが起業のきっかけ。長年職を離れていた人には再教育を、企業には女性パワーをPRすることに、お互いのニーズ



30歳の時に再就職にチャレンジするがその難しさを痛感。派遣としてさまざまな職を経験するうちに、女性、特にミドルエイジの人材紹介システムの必要性を感じ、2003年3月有限会社「フラジュテリー」を設立する

リビング賞
女性対象の不動産業
女性のための“ええ家”見つけます

大阪市・松井知世さん (30歳)



不動産会社の営業職として、マンション販売に携わってきた松井知世さん。「女性の購入者は増えていますが、まだまだ不動産業界は“男の世界”。自分の知識や人脈を生かして、各人に合わせたサービスを」という思いから、「女性を応援するにわの不動産業」[マックプロモーション]を設立。良質な情報提供と相談態勢で購入をサポートします。その軸として「ええ家住みたい研究会」を結成し、会員対象のセミナー（第1回は7月下旬）を実施する予定。「女性客の立場で、物件選びのポイントやお金の問題をアドバイスしたい。大手にはできないきめ細かさで女性ならではの発想も生かしながら、住まいに関する“ワンストップサービス”を目指したい」と話します。

関西学院大学卒業後、東洋不動産に就職。同社退職後、複数の不動産会社で派遣社員として働きつつ起業を目指し、2003年9月に有限会社「マックプロモーション」設立。 <http://www.eeie.info/>

アイトコーポレーション賞
フレキシブルな小規模保育所
働く母が考えた“ちっちゃな保育所”

神戸市・末永美紀子さん (28歳)



現在1歳児のママ・末永美紀子さんに難題が持ち上がったのは出産後のことでした。夫が転勤となり、長距離通勤に。看護師として三交代勤務で働く末永さんも、子どもの急病などの対応が難しく、夫もあてにできない…。そこで考えたのが、よりニーズに合った“ちっちゃな保育所”でした。

看護師と保育士の協力のもと、健康な子どものほか、障害や持病があり常時服薬が必要な子どもも受け入れ可能に。「子どものケアのために働けないお母さんを応援しながら、子どもにとっても最適な保育を提供したい」。一時保育や延長保育も取り入れ、保護者や地域のボランティアと一緒に作っていきたく。か、「ちっちゃな保育所」は、自宅兼用に借りた一戸建てに、4月、オープン予定です。

兵庫県立看護大学卒業。2003年、兵庫県立こども病院を退職後、自宅マンションでの試験的な保育を経て開業へ。定員12人程度を予定。 http://www.h4.dion.ne.jp/~for_kids/

女性起業家支援キャンペーンとは?リビング新聞では、「女性のため」「地域のため」に役立つ事業を起こしたい、広げたい人を支援する「女性起業家支援キャンペーン」を行っています。「リビング賞」には賞金50万円、「アイトコーポレーション賞」は起業のためのコンサルティングと施設備品合計50万円相当を授与し、今後の活動の支援とします。今年は、378人が応募。時代を反映してか、癒しやコミュニケーションに注目した応募が目立ちました。今後もリビング新聞は、女性起業家を応援します!